

第1回都市対抗世界子ども将棋団体戦決勝戦次将戦棋譜解説

先手：Zhengfei Xu（北京）

後手：Zhu Yuling（上海）

棋譜：<https://system.81dojo.com/ja/kifus/9578331>

青野照市九段による解説は以下の通り。

21手目 ▲3七銀型と▲8八銀は中央が薄くなって、ちぐはぐ。急戦を狙うなら▲6八銀で中央を厚くしたい。

▲8八銀は▲4七銀型で▲5九角から▲3七角という使い方をする時なら有効な一手だが。

26手目 先手の中央が薄い時に、例えば△3五同步▲4六銀△3六歩▲2六飛に、△4五歩▲同銀△5五角か、

▲4六銀にすぐ△4五歩▲3五銀△5五角のように反撃したい。

37手目 ▲7五歩と取るのは悪手。△同銀で後手の駒に勢いがついてしまう。単に▲4六角ならいい勝負。

44手目 △8六歩から銀交換になれば後手良し。

52手目 △3四同銀は大悪手で逆転。△3九角と打てば後手の優勢。

53手目 逆に▲7一角が打てては、先手優勢となった。それでも後手は△8三飛▲4四角成△3三銀と粘れば、まだ大変だったが、7二に飛車がいるため△3三銀だと▲5四馬がある。しかし▲1一馬と香を取られては辛い。

ただし▲1一馬には△3五歩よりなかった。▲3五歩を打って、さらに先手優勢が広がる。

67手目 一発▲2四歩と突けば、さらに良かった。

72手目 後手は辛い△4四歩と受けるよりなかった。

75手目 飛車取りをほっておいて▲7一角と寄せに行ったのは好判断。

77手目 ▲6七歩も好手。馬が逃げれば、先手玉は安全になり、▲6一銀で勝てる。

85手目 ▲4一銀が決め手で先手の勝ち。以下はうまく寄せ切った。

後手は作戦がうまく行って優勢になっていただけに、たった一手のミスで負けにしたのは残念。

（了）